教育委員会事務点検・評価について（令和２年度対象）

概要版

Ⅰ　教育委員会の事務点検・評価制度の概要（報告書 P1・2）

１　対象年度　令和２年度

２　法令上の根拠　地方教育行政の組織及び運営に関する法律　第 26 条

３　評価方法　教育委員会の権限に属する事項について、教育委員会が自らの事務の適切な執行について確認するとともに、点検・評価を行うに当たり、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図っている。

※評価委員　学校教育分野：小橋　暁子（こばし　さとこ）氏
千葉大学教育学部准教授　専門：造形教育学
生涯学習分野：岩崎　久美子（いわさき　くみこ）氏
放送大学教授（前国立教育政策研究所総括研究官）　専門：生涯学習政策

４　重点的に評価する事業等［令和２年度の新規・拡充事業］※（　）は評価委員が視察・ヒアリング

学校教育分野
- 専科指導のための非常勤講師の配置（千葉市立検見川小学校）
- スクールカウンセラー活用（千葉市立桜木小学校）

生涯学習分野
- 千葉市生涯学習センターの管理運営（千葉市生涯学習センター）
- 千葉市立郷土博物館の管理運営（千葉市立郷土博物館）

Ⅱ　教育委員会の活動状況（報告書 P3・4）

１　教育委員会会議を 14 回開催し、99 件の議決を行った。
２　各種イベントや研修会、会議等に出席したほか、ホームページや教育だよりを活用した広報活動や教員を目指す大学生との意見交換などを実施した。

Ⅲ　点検・評価の結果（報告書 P5～P106）

１　教育委員会による自己評価

学校教育分野は「第２次千葉市学校教育推進計画」に、生涯学習分野は「第５次千葉市生涯学習推進計画」にそれぞれ基づき、各施策を実施しているため、両計画の進捗状況を評価することにより、点検・評価を行った。また、令和２年度の新規・拡充事業のうち４つの事業について、重点的に評価を行った。

（１）全体の評価について

	成果指標					アクションプラン				
		◎	○	×	－		達成	順調	遅れ	休止
学校教育分野	54	2	2	10	40	108	24	67	12	5
生涯学習分野	10	3	0	5	2	66	18	25	21	2

区分		
	◎	最終目標値（R3 目標値）以上のもの
	○	「R2 末実績値と H27 末現状値の差」が「最終目標値（R3 末目標値）と H27 末現状値の差」に対し 80%以上であるもの
	×	「R2 末実績値と H27 末現状値の差」が「最終目標値（R3 末目標値）と H27 末現状値の差」に対し 80%未満であるもの
	－	達成率で評価しない（できない）もの

達成	最終目標（R3 目標）以上のもの
順調	おおむね順調に進捗しているもの
遅れ	進捗状況に遅れが出ているもの
休止	事業を休止したもの

新型コロナウイルス感染拡大の影響があるものの、昨年度と同様、アクションプランの進捗状況は達成・順調の項目が多い一方で、成果指標の達成状況は◎・○の項目は少なく、実施している取組が成果として表れていない傾向が見られる。成果指標の妥当性、成果指標とアクションプランとの整合性、今後も続くことが予想されるコロナ禍での取組等を含め、より効果の高い事業を実施する必要がある。

（２）重点的に評価する事業等について

ア　専科指導のための非常勤講師の配置　（報告書 P46・47）

専門性の高い指導を実施するとともに、担任教員が児童と向き合う時間を確保するため、小学校に専科指導のための非常勤講師を増員し、75 名配置した。これまでは音楽の講師を配置していたが、令和２年度からは新たに図工・家庭・体育の講師を配置した。

イ　スクールカウンセラー活用　（報告書 P54・55）

小学校大規模校等４３校について、スクールカウンセラーの配置時間を週３時間から４時間に拡充し、児童の心のケアをすることで、不登校やいじめなどの未然防止や早期発見、早期解決を図った。また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、学校再開後において、様々な不安やストレスを抱える児童生徒に丁寧に寄り添うために、スクールカウンセラーの配置拡充を行い、きめ細かに対応する体制を整えた。

ウ　千葉市生涯学習センターの管理運営　（報告書 P82・83）

実施講座数は前年度に比べて約半減したものの、防災、医療・健康、国際理解、高齢者関係、家庭教育など様々なテーマで講座を開催したほか、コロナ禍でも市民への学習機会を継続して提供するため、新たにオンライン形式での講座を一部実施した。

エ　千葉市立郷土博物館の管理運営　（報告書 P77・78）

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、教育普及事業の一部は中止したが、一部講座等については動画や冊子で公開するなど工夫し実施した。また、特別展「軍都千葉と千葉空襲」など展示事業は予定どおり実施した。また、市史編さん事業では、明治期の史料をまとめた『千葉市史史料編 10 近代 1』を刊行した。

２　評価委員による評価

小橋委員の意見（報告書 P97～100）

全体について（総括的所見）

- 令和２年度は新型コロナウイルス感染拡大のため学校休校や夏季休暇の短縮等もあったが、学校は子どもたちの育ちに多様な役割を担っていることを改めて認識されたともいえる。
- 児童生徒を取り巻く課題は多様化している。専門的な知見からの対応や質の向上のためにも、教職員への支援が一層求められるだろう。

専科指導のための非常勤講師の配置について

- 専門性が生かされる図工等の専科非常勤講師を配置することにより、きめ細やかな指導が行われ、児童が意欲的に活動していること、また校内での各教員の授業担当コマ数が軽減されていることを確認した。
- 今後の配置継続や実際の運用面の充実として、専科教員と他教職員との児童生徒の理解や個別の指導方法を共有する時間の確保が重要になるだろう。それは質の向上と児童の実態をふまえた指導にもつながる。

スクールカウンセラー活用について

- スクールカウンセラーは児童生徒と教員間の関係をつなげたり、継続してかかわることで教員、児童生徒、保護者らの不安感を除いたり、児童生徒自身の相談するスキル向上にもつながることも見え、学校運営にとってなくてはならない役割を担っている。またスクールカウンセラーが入ることで問題の早期発見や掘り起こしにつながることもあり、予防の観点からも重視すべきことであるといえる。
- 課題としては、スクールカウンセラーの勤務時間の制限もあり、教職員間での打ち合わせの難しさが挙げられる。校内での情報共有の方法など好事例を市内学校間で共有できるようにしていくことも全体の質を高める一助になるのではないだろうか。

岩崎委員の意見（報告書 P101～103）

全体について（総括的所見）

- 新型コロナウイルスの感染拡大の状況により従来の業務が制限されたことで、各施設においては管理・運営に種々苦慮されたことが想像される。
- 施設の閉館や入場者制限が要請される中、事業数や入館者数などの従来の指標による評価は意味をなさないことから、この機としては、予想しなかった事態への対応や実践を積極的に評価し、また、その実践を検証、記録し後世に伝えることがより肝要と思われる。

千葉市生涯学習センターの管理運営について

- 講座実施という目的のために生涯学習センターと公民館とが実質的に連携し経験知を蓄積することで相互の信頼性がより強化されたと想像する。予想できない状況下で臨機応変に対応し、講座提供ができたことは、職員の専門的知識や見識によるものであり、高く評価されるべきものである。
- 男女共同参画センター、自立・就労サポートセンター、博物館や美術館などとの多様な連携が見られ、事業企画の広がりを感じるところではあるが、今後も、社会の変化にアンテナを張り、市民の学習ニーズを丁寧にすくい上げ、事業企画に反映していくことが望まれる。
- 生涯学習センターや公民館といった成人の学習の場を運営する職員は、自らが市民のモデルとして学習を体現する者であることが望まれる。専門職性を高めるために自ら研鑽を積み自己啓発に努めるとともに、組織においても積極的に職員の研修、教育を推奨することが期待される。

千葉市立郷土博物館の管理運営について

- 千葉市民としてのアイデンティティは、市民に千葉市とは何なのかを絶えず語りかけるストーリーによって形成される。千葉開府 900 年に向けて、多様な媒体を通じて、千葉市の持つストーリーを市民に伝え、啓発することが、「都市アイデンティティ」の共有には大切である。
- 学校教育との連携は積極的に進められている。学校教育を通じ、郷土博物館が子供の頃から馴染みのある施設として、子どもたちに意識されることが必要である。立地などにも恵まれ、気楽に立ち寄れる施設であることの利点を最大限に利用し、子どもが自ら訪れ関心を抱くような企画・展示に一層工夫をされることを期待したい。

評価委員の意見に対する対応（報告書 P104～106）

これまでの事務点検・評価において評価委員よりいただいた意見に対する対応状況は右表のとおりです。

1 項目について検討中であるものの、すべての意見に対し、適切に対応しています。

説明	項目数
意見に対する取組みを実施しているもの。	5
意見に対する取組みについて検討しているもの。	1
未対応のもの。	0